



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News Vol.11
November 1, 2000

➤ ADRCの最近の活動状況

1. 第5回アジア太平洋防災会議 (APCDM)

(2000年9月27~30日、バンクーバー)

第5回APCDMの目的は、政府や非政府機構ばかりでなく、国際社会、健康問題や災害の専門家が、緊急医療の方法、モデル、技術について話し合うフォーラムの場を提供することでした。会議では8つのテーマが取り上げられましたが、ADRCのバンバン研究員は、災害医療と災害対策におけるTelehealthと通信技術のテーマで、災害対策のためのインターネットGISシステムについて発表しました。

この会議は、コロンビア大学防災リソース・センターのWayne Greene博士によって企画され、JICAの災害援助課、ブリティッシュ・コロンビア地域緊急事態プログラムなどからも参加がありました。

2. GDIN情報技術エキスポ・会議

(2000年10月9~11日、ホノルル)

ADRCの小川所長、バンバン研究員、アクター研究員はハワイで開催されたGDIN会議に参加しました。緊急事態担当官の情報の必要性、情報技術と情報源、ネットワーク技術の分析と評価などのトピックに焦点が当てられました。

Integration Strategiesをトピックとしたセッション7では、小川所長と太平洋災害センターのリー所長が議長をつとめました。またバンバン研究員は、「具体的なInstitutional Strategiesに向けた歴史的データの共有とインターネットGIS」の題目で発表を行いました。さらにADRCは、歴史的な災害への統一IDコードの付与、アジア太平洋地域災害情報ネットワーク(APDIN)における組織の職務分掌のマトリクスについての題目を取り上げました。極めて実りある討議となり、より一層の協調行動の可能性が見出されたと考えています。APDINの現在の活動には下記のものがあります。

a. 現存のDisaster Information Network (DIN)のキャパシティとリソースの調査

情報へのアクセスを単純で容易なものとするため、DINのキャパシティやリソースと関連している情報の種類を識別するマトリクスを開発します。これにより、情報源の包括的な概観が可能になり、重複した作業を避け、組織相互の協力を促進することができます。

b. 歴史的な災害情報のデータベース構築

これは、現存のデータベースとの重複を避け、Centre for Research on the Epidemiology of Disasters (CRED) やその他の

同様データベースを保有する機関と協力して、関連データ収集のプランを開発するために行います。この情報入手においては、国や情報の種類ごとの簡単なマトリクスを利用することを想定しています。

また、ADRCはハワイのホノルルにあるDisaster Management Humanitarian AssistanceのCenter of Excellence (COE)を訪ねました。COEは、市民軍との協調や協力を通じて、人道的危機の防止や緩和を支援することをその使命とし、災害対策、人道援助、平和活動に焦点を当てています。

➤ アジアにおける最新災害情報

□ カンボジアの水害とOCHAの活動

カンボジアで7月に始まった洪水は、人口の20%が被災するというこれまでで最悪の結果をもたらし、長期にわたって人々を苦しめています。9月15日、国連人道問題調整事務所(OCHA)のジュネーブ本部は、OCHAアジアユニットの地域アドバイザー、Ms. フェン・ミン・カンを国連現地駐在調整官とカンボジア政府の洪水への対応活動を支援するために、カンボジアへ派遣しました。

9月20日から、Ms. カンは国連災害評価調整 (UN Disaster Assessment Coordination, UNDAC) チームのリーダーを務め、被害調査や国連アピール作成といった点で、国連現地駐在調整官とカンボジアの国連災害マネジメントチーム (UNDMT) を支援しました。この国連アピールはカンボジア政府への緊急支援を各国政府に訴えることを目的としています。Ms. カンの他に、カナダとデンマークからもUNDACのメンバーが派遣されました。UNDACチームの協力により、カンボジアのUNDMTは10月2日にアピールを発表し、最も被害の大きかった地域の850,000人を6ヶ月間援助するために必要な10.7百万米ドルの寄付を訴えました。

□ バングラデシュで新たな災害発生

バングラデシュ南西地方で、稀に見る深刻な洪水被害に立ち向かう中、10月26日にはベンガル湾で大きな低気圧が発生し、28日にサイクロンへ成長して、進行方向を変えてバングラデシュを襲い、非常に大きな被害を与えました。

サイクロンは強風を伴った豪雨となって、カンチャハウス(泥で作った住居)を壊し、樹木を引き倒し、ほとんど国土全域を停電させました。

14人の死者が公式に報告されていますが、National Dairy紙で報道された非公式な情報によると、死者は26人に及び、100人以上の漁師が行方不明になっているといわれています。

(10/30、バングラデシュ災害救援省次官 Khabiruddin Abmed氏寄稿)